オーガニック・エコフェスタ2022

目的 1　生産者・流通業者・消費者マッチング

本大会は2012年から継続している活動であり、これまでの取り組み踏まえオーガニック・エコ農産物を中心に生産者と消費者で共に日本の食と農の未来について考える大会である。
国は、令和3年5月12日に「みどりの食料システム戦略」を策定しました。
本大会では、国の戦略課題に沿って事業を実行し、多様なプロジェクト群を連動させることによってオーガニック・エコ農産物及び生物多様性農業の市場への浸透を図り、普及拡大を進めます。
また、コロナ禍でのニューノーマル時代だからこそ、日本の食と農を創造し未来志向で考え、生産者、消費者、流通業者、行政関係者等が連携し、環境全てに「未来良し」となる新しい農業力を発信し、全国とオン・オフラインでつながるハイブリットイベントを開催し新時代を展望します。

- 持続可能な地域づくり
- 食と農に特化した情報発信
- 食と農マッチングの場づくり

2 準備　高付加価値の見える化と持続可能性の高い農業の実践意義

- 持続可能な社会と地域循環型農業に必要な体制づくり
- 高品質で多収穫な栽培技術をICTによる情報提供で取得し、「だれでも・どこでも」できる農業へとつなげる（NTTコムウェアとの連携など）
- 高品質・多収穫な次世代型の有機農業技術で生産した農産物の意義の発信

消費者が有機農業など「持続可能性の高い農業」で栽培された農産物の意義の理解を深め，自らの食意識に刺激を与えるイベントとする。
　価値を的確に評価するバイヤーや消費者への販路を確保するためオーガニック・エコ農産物の生産・販売及び生物多様性農業に取り組む人的ネットワークの構築と人材育成（農業担い手）を図り、流通の縁組みの機会をつくる。

概要 3　オーガニック・エコのコンテンツ

これまで取り組んできたオーガニック・エコの取り組みにSDGsやエシカル消費を絡めたコンテンツを計画。
テーマ：「みどりの食料システム戦略」「BLOF理論」「環境保全型農業と有機飼料米」「地域資源を活用した有機肥料開発」「オンライン営農支援システム開発」「協同組合間協同」「ネオニコフリーの米づくり」「エシカルな新しい流通連携」「エシカル農業推進計画」「栄養価コンテストと農家スター誕生」「CSA」「機能性（はたらき）のある農産物の表示に関する実証実験」「ガストロノミー産学官連携」「学校給食をオーガニックへ」「農業関係人口の創出」「食農シェアリング」など

- みどりの食料システム戦略に沿ったイベント活動や取組み事例を発信
- 食農マッチング事業の構築
- 産学官連携、農商工連携、6次産業化のプロジェクト成果発表の場

4 具体策　メインスポンサー主導でのシェアリング、農業関係人口の創出

開催予算(案)　：500万円

オーガニック・エコフェスタ2022

2月19日（土）　有機農業技術者会議

2月20日（日）持続可能な食と農の未来

●2月19日（土）：有機農業技術者会議、生産者の技術交流会
県内外のオーガニック・エコ生産者による栄養価コンテスト、講演、パネルディスカッション、交流会等
●2月20日（日）：持続可能な食と農の未来
協同組合間協同の実践、機能性（はたらき）のある農産物と栄養価コンテスト連動企画、上映会、子供食堂、シェアキッチン、CSA 等食育イベント、講演会、パネルディスカッション
※コロナ禍の状況により中止になる場合があります。

OEF2022 みどりの食料システム戦略 in徳島（具体的な取組）
～食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現～

調達

1．資材・エネルギー調達における脱輸入・脱炭素化・環境負荷軽減の推進

・地域資源を活用した環境保全型農業の推進

徳島耕畜連携型農業研究会では、耕種農家（野菜・お米など）、畜種農家（豚・鶏）、流通（系統組織・飼料会社など）、市場（生協など）の関係者とが連携し、行政もアドバイザーとして参画し、地域資源を有効的に利用した持続可能な環境保全型農業を実践している。

養鶏 ▶ 飼料米 ▶ 堆肥＆肥料 ▶ 野菜飼料米

生産

2．イノベーション等による持続的生産体制の構築

・BLOF理論（生態系調和型農業理論）

科学的かつ論理的に営農していく事で
「高品質」・「高収量」・「高栄養」を実現し
環境に配慮し有機農業の耕地面積を広げることができる有機農業技術（BLOF理論）の普及・拡大を目指す。
小祝氏が提唱するBLOF理論は国連総会SDGsカンファレンス２０１９にて第一席になった持続可能な有機農業技術である。この技術を活用した取り組みの普及啓発は生産者だけでなく、消費者にとっても十分に魅力のある取り組みである。

1000人の有機農業者づくり

人材育成（食農マッチング）
地方と都市を繋ぐ関係人口

・持続可能な農山漁村の創造
・サプライチェーン全体を貫く基盤技術の確立と連携（人材育成、未来技術投資）

雇用の拡大
地域所得の向上
豊かな食生活の実現

消費

4.環境にやさしい持続可能な消費の拡大や食育の推進

・徳島県エシカル農業推進計画の実践
①SDGs を契機とした持続可能な取組として「有機農業」や「GAP」の推進。SDGsの達成に向けた「エシカル農業」の実践。消費拡大対策としてオーガニック・エコフェスタでの「食育イベント」を実施する。
②日本ヘルスケア協会の「野菜で健康推進部会」が実施する野菜や果物に含まれる栄養素や成分の「一般的な特徴」について表示（あきらか食品）する実証実験の実施（農産物コーナーの拡大・強化）
栄養価コンテストの受賞生産者コーナーの充実（作る人と食べる人を繋ぐ）
③小松島市による学校給食における地産地消推進活動
④「つくって（シェアキッチン）、食べて（子供食堂）、みて（上映会）、分かる食育イベントの開催
⑤CSA協議会の活動、家庭菜園講座、各種料理教室・6次産業化研修会（地域循環資源を活用した商品開発）、産学官連携での香酸柑橘ブランディング）

加工・流通

3．ムリ、ムダのない持続可能な加工・流通システムの確立

①「コウノトリが結ぶ、協同組合間協同」
（JA東とくしま（生産・加工）×コープ自然派（流通・販売）協同組合間協同による生産・加工・流通による連携。

②「ネオニコフリー米プロジェクト」
環境循環型のネオニコチノイド農薬不使用の栽培技術を400～５００ヘクタールで実装。

③「やさいでつながるエシカルな物流」
エシカルファーマーとエシカル消費者を結ぶ「７JAとやさいバスの広域連携流通の仕組みづくり」